

平成25年度事業内容

① バイオテクノロジー導入優良品種

バイオテクノロジーの手法を用いて、特産野菜花き等の新品種育成、優良系統の選抜及びウィルスフリー化技術の開発を行う。更に国公立研究機関との共同研究で培養苗の馴化及び生育ステージ別の保存技術を開発し、種苗の計画的生産、供給システムを確立する。

- 1 育種手法及び優良種苗の増殖技術開発
 - (1) 遺伝資源、育種素材の収集保存
 - (2) バイテク利用による育種手法の開発
 - (3) 組織培養技術利用による優良種苗の増殖とウィルスフリー化
- 2 バイオテクノロジー実用化技術研究開発
 - (1) 健全な植物体育成の効率的培養条件、馴化条件の解明
 - (2) 培養苗の保存技術の開発
 - (3) 遺伝変異利用技術の開発

② 産官共同バイテク育種

バイテク育種の手法を開発した野菜、花き及び果樹の実用品種について、民間（県農）と共同し効率的に品種の育成を行う。

- 1 和歌山県
 - (1) バイテク等で変異個体を作成
 - (2) 一次選抜及び特性検定、評価
- 2 民間（県農）
 - (1) 一次選抜、二次選抜及び現地適応性
 - (2) 優良系統の販売適応性及び評価

③ ミニトマト産地化技術体系化

ミニトマトの産地拡大を図るためには、良品質、周年安定供給が必要である。そのため、連続出荷、安定生産を目指し各種作型の組立てと安定着果技術を体系化する。

- 1 時期別育成、着果特性、作型の組立て
- 2 栽植法の改善
- 3 着果安定技術の確立

④ 出願品種栽培試験

種苗法に基づく品種登録の審査のため、出願品種の生態及び品種の特徴を調査する。

スターチス5品種、ウメ1品種

⑤ ウメ新産地化技術開発

労働力不足と年次による豊凶に対応するため、群馬及び福井県との共同研究で収穫作業の省力化及び安定着果技術の開発を行う。

- 1 収穫、調整出荷作業の省力化技術の確立
- 2 安定着果の受粉対策、栄養管理技術確立

⑥ 「ウメ衰弱症」緊急技術対策

主産地の一部地域で樹の衰弱、著しい減収が問題になっている「ウメ衰弱症」の発生実態を調査し原因の究明、発生防止、治療対策を明らかにする。

- 1 発生実態調査
- 2 発生原因の究明
- 3 発生防止、治療対策の体系化

⑦ 景観作物生産増殖技術開発

「花と緑」に対する関心が高まる中で、地域の景観づくりが求められている。農業技術を駆使し、自然、都市空間等での景観保全を図るための調整、研究を行う。

- 1 カバープランツ等の生産、利用技術開発
 - (1) 景観保全植物探索、収集、解特性調査
 - (2) 景観植物の大量生産技術
 - (3) 景観保全植物の利用
- 2 バイテク技術利用による希少植物の大量増殖及び自生地還元技術開発
 - (1) 希少植物の自生地の実態調査
 - (2) 組織培養による増殖及び自生地還元、保存技術

⑧ 黒潮フラワーエリア産地化

消費の多様化・関西空港の関連需要等新しい情勢に即した産地育成構想を達成するため基幹品目の周年供給の基礎となる生産技術を確立する。

- 1 バラのロックウール栽培による安定生産技術開発
- 2 スプレーカーネーションの多収栽培技術開発
- 3 高温期の花きの高品質・安定生産技術の確立

⑨ トルコギキョウ新産地化技術開発(新規)

トルコギキョウは消費が拡大しつつあり、本県での産地育成が期待されている。従来期の春1回出荷に対して、開花調節技術を開発し11月～6月までの長期連続出荷を確立する。

- 1 開花調節（苗低温処理）のマニュアル化
- 2 長期出荷栽培管理体系の開発
- 3 技術の組み立て体系化、現地実証